



第2回大岡産業レディース[THE OPEN]トーナメント

12月2~4日 / ポウルアロー松原店

敵なし! 姫路麗が4連勝

大会をとおして姫路の強さが際立った



▲「全日本も取って5連勝を目指します」と、すでにその目は先を見据えていた

昨年誕生した大岡産業レディース[THE OPEN]トーナメントの第2回大会が、12月2日から3日間、プロ83名、アマ7名が参加して大阪・ポウルアロー松原店で行われたが、10月の千葉オープンから3連勝中の姫路麗(33期・フタバボウル)が、他を圧する盤石の内容で公式戦の連勝を4に伸ばした。またベストアマには、総合12位で石田万音選手(ポウルアロー松原店)が輝いた。(主催: (公社)日本プロボウリング協会 / 特別協賛: (株)大岡産業)



▲「寺下プロとストライクを出し合って、いい対決を見ていただきたかったけど、苦しい戦いになってしまいました」と霜出

それでも「去年1年のことを思うと、この順位は信じられないです」と、戦いの場に戻ってこられた手ごたえをかみしめていた。

これで4連勝とした姫路は「他の選手がやる気をなくしてしまう結果になってはいけない。私もかつて時美津子さんや吉田真由美さん、松永裕美さんらに人を見て気持ちを奮い立たせてきた。打倒姫路で頑張ってくれて、全員のレベルが上がればいいなと思う」とげきを飛ばした。

予選で早々とトップに立った姫路は、準決勝でもその座を譲らず1位で決勝ラウンドロビンに進出。そして「ラウンドロビンの1G目でいけると思った」と手ごたえをつかむと、手綱を緩めることなくポジションマッチを含め、圧巻の8戦全勝でトップシードを決めた。

素手のボウリングへの対応



▲「苦しくてボウリングを続けるべきかどうかというところまで追詰められた」という寺下だが、リスタイナしなくても戦えることを証明した

に苦しんでいた寺下智香が、2位で久々のTV決勝進出。そしてラウンドロビンで、ポジションマッチを含め姫路には2敗を喫したものの、それ以外は全勝の6勝を挙げた霜出佳奈が3位で進んだ。

3位決定戦

1994年生まれと同級生対決となった3位決定戦は、3フレに寺下がスプリットでオープンを作れば、霜出も4フレをスプリットでオープン。寺下が5フレ②④⑥⑦をミスれば、霜出も6フレ③⑥⑩をカバーミス。さらに7、8フレをともにダブルと、申し合わせたような展開で9、10フレ勝負に持ち込まれた。その9フレ、霜出はすべてストライクのきている左レーンで「それまでと同じようなラインを通ったけど、あんなに急

に曲がるとは…」と8本カウントでターキーならず。さらに10フレはバケットをカバーミス。霜出のミスにも助けられる形で勝利した寺下は「普段あんなミスをしないう佳奈ちゃんが、私が穴を開けたところにお付き合いしてくれたり、とにかくついていました」

優勝決定戦

そのツキを優勝決定戦に生かしたいところだったが、「姫路さんの練習ボールを見て完璧だったので、私が持ってくるしかないなと思った」と寺下。その予想どおり、姫路は「パーフェクトを出して勝つ、途中で

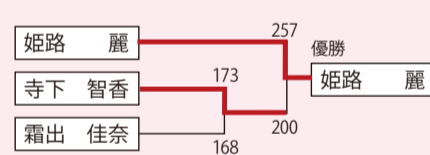
1本残ったときは、279で勝つという風に、マックスをイメージしていました」と、みじんも手を緩める気はなかった。

1フレからのフィフスなどで257を打った姫路に対し、寺下は右レーンは完璧だったものの、「左がまったく分かっていなかった」と、ノーミスで200にまとめるのがやっとだった。

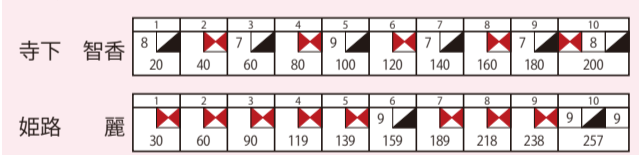


▲ベストアマの石田万音選手

●決勝ステップラダー



●優勝決定戦



FOCUS UP

17歳の新人・中島瑞葵の活躍で再び注目される柴田英徳プロの育成手腕

柴田英徳プロといえば、全日本選手権3勝を含む通算16勝のトッププロ・松永裕美を幼少期から熱血指導で鍛え上げた鬼コーチとして知られるが、昨年17歳でデビューし、瞬く間に2勝を挙げた中島瑞葵もまた同プロの教え子だ。2015年デビューの宇山侑花を含め、世代の違う女子プロを見だし、育て上げた“西の名伯楽”に、その愛弟子3人がそろって出場した第53回全日本女子プロ選手権の会場でお話をうかがった。

☆

松永を教えていたころは、私自身まだ(指導法を)試行錯誤していたので、投球練習にしる体力トレーニングにしる、とにかく厳しくしていました。ボウリングの特性も性格も人それ



▲愛弟子3人がそろって出場した第53回全日本女子プロ選手権の会場にて。左から中島、柴田、松永、宇山の“小嶺ボウリングファミリー”

れです。今はその人に合った指導を考えていますが、宇山にも中島にも厳しくしているのは同じ。でも、みんな私のことを父親のような感覚で見ているので、叱りつけても次の日にはケロッとしていますよ(笑)。

松永は赤ん坊のころから両親に連れられてボウリング場(小

嶺シティボウル)に来ていたし、宇山と中島は小学校低学年のころ、夏休みのボウリング教室に通って来ていた生徒です。2人とも20人、30人というなかで、私が見て感じる部分でズバ抜けたものがありました。

将来プロになって稼いでいけるような伸びしろのある素材か

どうかは、私が自分の目で見て判断しますが、その上で重要なのはご家族の理解と支援です。学校に通いながらボウリングの練習をするわけですから、本人が「やりたい」と言ってもご両親が「やらせてみよう」と思わなければ、プロを目指して前に進むことはできません。その点、3人とも家庭環境には恵まれていましたね。

普段から家族ぐるみの付き合いをして、ボウリング以外の相談にも乗るし、私自身彼女たちには何の隠し事もありません。スムーズに意思の疎通が図れていると思います。時折、今の若い人の頭の中がよく理解できないこともあります(苦笑)、諦めずに理解しようと努めています。とにかく、みんながのびの

びとやっつけていける環境であれば、それがいちばんじゃないかな。

どんなスポーツでもそうですが、10代、20代の若い選手が活躍することで、その業界が注目される。宇山も中島も、2022年はよりいっそう頑張ってもらいたいと思います。(談)



しばた・ひでのり / 1948年10月19日生まれ、福岡県出身。168cm、74kg、右投げ。73年プロ入り(11期/ライセンスNo.368)。株式会社アドバンススポーツ(小嶺シティボウル)代表取締役社長。